

令和5年度（2023年度） 第1回熊本市教育の情報化検討委員会 会議録（要約）

1 日時 令和5年（2023年）7月14日（金）13時30分～15時30分

2 場所 熊本市教育センター 2階第2研修室

3 出席者

【委員】

放送大学 教授 中川 一史（委員長）

熊本大学 名誉教授 塚本 光夫（副委員長）

熊本大学 特任教授 前田 康裕（委員）

熊本市PTA協議会 会長 濱石 浩二（委員）

千原台高等学校 教諭 高木 洋一（委員）

桜山中学校 教諭 岩佐 祐子（委員）

尾ノ上小学校 教諭 岡本 亜紀子（委員）

帯山小学校 教諭 宮本 美哉（委員）

【熊本市（事務局）】

教育センター 澤田所長、吉田副所長、豆塚主任指導主事

教育センター 職員

4 配付資料 次第

5 次第

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 議事

ア 全国の先進事例、動向について（中川一史先生）

イ リーディングDXの取り組みについて（教育センター）

ウ 学校の取り組み状況紹介（小学校→中学校→高等学校→特別支援）

イ 自由討議

① 学校間・教師間格差の解消について

・学校間におけるタブレット端末を活用した子供たちの学びの格差解消について

・同一学校内における教師間の授業での格差解消について

・端末を活用した家庭学習の充実について

② 教育データの利活用について

(4) 閉会

6 議事の内容

| | |
|---------------|---|
| 開会 (事務局) | ただ今より「令和5年度(2023年度)第1回 熊本市教育の情報化検討委員会」を開会します。 |
| 委員紹介 (事務局) | <p>それでは、委員を紹介します。</p> <ol style="list-style-type: none">1 放送大学 教授 中川 一史様です。2 熊本大学 名誉教授 塚本 光夫様です。3 熊本大学 特任教授 前田 康裕様です。4 熊本市PTA協議会 会長 濱石 浩二様です。5 千原台高等学校 教諭 高木 洋一様です。 <p>高木委員は、今年度、高等学校の代表として学校長からの推薦を受け就任して頂いております。</p> <ol style="list-style-type: none">6 桜山中学校 教諭 岩佐 祐子様です。 <p>岩佐委員は、今年度、中学校の代表として学校長からの推薦を受け就任して頂いております。</p> <ol style="list-style-type: none">7 尾ノ上小学校 教諭 岡本 亜紀子様です。8 帯山小学校 宮本 美哉様です。 <p>宮本委員は、今年度、特別支援教育の代表として学校長からの推薦を受け就任して頂いております。</p> <p>本日まで出席の予定であった熊本県立大学の飯村伊智郎教授、出水南小学校の上妻薫校長につきましては、所用のため欠席となりましたことを報告させていただきます。</p> |
| 定足数 (事務局) | <p>それでは、本日の出席者数につきましてご報告いたします。</p> <p>本日は、10名中、8名の委員が出席されており、委員総数の過半数の方が出席されていることから、熊本市教育の情報化検討委員会運営要綱第5条第2項の規定に基づき、検討委員会は成立していることを報告いたします。</p> <p>なお、この検討委員会の議事録及び資料を熊本市のホームページに掲載いたしますことをご了承ください。</p> |
| 挨拶 (事務局) | <p>それでは、開会にあたりまして当教育センター所長の澤田が、委員の皆様にご挨拶を申し上げます。</p> <p>【澤田所長 開会の挨拶】</p> |
| 事務局紹介 | 続きまして事務局の紹介へ移りたいと思います。 |

| | |
|-------------|--|
| (事務局) | 【事務局の紹介】 |
| 委員長及び副委員長選出 | (本検討委員会の委員長及び副委員長を、熊本市教育の情報化検討委員会運営要綱第4条第1項の規定に基づき、互選で選出し、放送大学の中川教授、熊本大学の塚本教授を委員長、副委員長に選出。) |
| (事務局) | 検討委員会の議長は、熊本市教育の情報化検討委員会運営要綱第5条第1項の規定に基づき委員長が務めることになっておりますので、議長、議事の進行をよろしくお願いいたします。 |
| 中川委員長 | みなさんこんにちは。よろしく申し上げます。 ぜひ忌憚のないご意見をいろいろと頂ければと思っています。 |
| 中川委員長 | 【教育の情報化に関する全国の先進事例、動向について、話題提供】 それでは次に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。次にリーディングDXスクール委託事業の取り組みについて、事務局より説明をいただけますでしょうか。よろしく申し上げます。 |
| (事務局) | リーディングDXスクール委託事業の取り組みについてご説明いたします。まず、こちらの課題背景といたしまして、現在GIGAスクール構想に基づく端末整備をほぼ完了したという状態にありますが、その中で、自治体間・学校間で端末活用に大きな格差が生じているというのが全国の様子です。国としても1人1台端末を前提とした指導は、全く新たな取り組みで、教育課程上の工夫や指導技術が十分に確立されていないという現状があります。そこで、端末の活用状況を把握分析するとともに、日常授業の改善を中心とする効果的な実践例をモデル化し、都道府県等の校内や校種を超えて横展開し、全国展開することで数年後に想定される端末更新期を迎える前に、全国全ての学校でICTの普段使いによる教育活動の高度化を実現するという内容になっております。 実施する具体的な内容ということで5つ挙げられております。1つ目は個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実。2つ目は動画教材の活用や外部専門家によるオンライン授業。3つ目は端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等。4つ目は校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修。最後に5つ目は実践内容を動画や写真研修のオンライン公開などにより地域内外に普及することとなっております。参加したところはこの5つを全て行い、学校ごと、 |

| | |
|--------------|--|
| | <p>地域ごとに重点項目を決めながら取り組みを行っていくということになっております。そこで、熊本市も2グループ参加しております。藤園中学校区が藤園中学校・城東小学校・五福小学校、そして北部中学校区が北部中学校・川上小学校の2グループ5校が参加しております。</p> <p>取り組み内容ですが、現在、いろいろ検討しながら取り組んでいただいておりますけれども、1つ目は、各教科で学んだ情報活用能力を生かすことができるようなカリキュラムマネジメントを行ったり、授業支援アプリを用い、体験の共有や集約を行ったりしています。iPad 標準アプリを用いたプレゼン発表や ICT の効率的な活用です。2つ目は NHK for school の番組やクリップ、デジタル教科書等の活用、モラル動画教材の利用です。3つ目は、学習支援アプリによる課題の配付と回収。あとは朗読や日記・計算練習・漢字練習問題等のデジタルドリルの取り組みです。4つ目は Teams 等を活用した連絡確認や情報共有及びペーパーレス化の推進に向けて、クラウドの活用推進です。そして最後5つ目ですが、学校ホームページの充実、オンラインによる研修参加、実践内容・研修を動画や写真で公開するということになっております。今回の事業に参加をして新たに何かに取り組むというよりも、GIGA スクールの環境が整った環境の中で何をやるかと参加校以外の学校への横展開ということに重きを置いております。</p> <p>これでリーディングDXスクール事業の説明を終わります。</p> |
| <p>中川委員長</p> | <p>どうもありがとうございました。何か質問ありますか？</p> <p>全国でリーディングDXスクールの委託事業を受けているところはたくさんあると思うんですが、個人的にも熊本市にはとても期待しています。先ほど事務局からありましたように、委託受けたから特別なことをするというよりも、熊本市の場合は、今までの延長でどんなことができるかっていうところを示せることが、私はすごく大きなことだと思っていますので、繰り返しになりますけど、そういう意味で期待をしています。本当に普段使いにつきるというふうに思っていますので、是非ともまた情報を共有していただければと思います。ありがとうございました。</p> |
| <p>中川委員長</p> | <p>それではせっかく今日、各学校種の委員の方が出席されていますので、今の各学校の現状について簡単にご紹介頂きたいと思っています。まず小学校の例ということで、岡本委員よろしく願います。</p> |

岡本委員

尾ノ上小学校の岡本です。この場面は、昨年度の算数の研究授業の場面ですけれども、友達の考えを「君はどうしてこうしたの」っていうようなことをお互いに聞き合っているようなところです。画面に映し出して、「自分と同じ考え方の人はいるだろうか」ということとか、「自分と違うから、この人の考えを聞いてみたい」というようなことを、自分たちで電子黒板のところに歩いて行って、見つけに行っている場面です。単にノート代わりにタブレットを活用するっていうことが多いんですけども、そうではなくて、私たちが理想としているのは、タブレットを活用することで、対話の活性化につなげたり、思考を深めたりするということです。これを、職員で共通理解して、そこを目指して授業が上達するように、それぞれが、今頑張っているところです。

本校は最先端のICTを活用した授業ができるっていうわけではないんですけども、そういう意識を全員が持って取り組んでいるという実感はあります。そのために、1年生のうちから、まずはぬり絵とかKahoot!とか、写真撮影とか、そういったことから始めているということを1年の担任は言っていました。それから、これは学校探検に行く時に板書を撮影したものらしいんですけど、最初はそれだけ配っていたらしいんですが、自分たちでロイロノートのペンで行きたいところに丸を付けたりとか、どこを最初にまわろうかとか、自分たちで考えて使う姿が見られるようになったということを聞きました。

これは3年生の子供が作ったものですけども、ミライシードを真似てScratch Jrで作ったものなんだそうです。ちょっと面白かったので見てください。習ったことをこうやって自分たちで組み立てて行って、友達に問題を出して楽しんでいるっていうようなところです。1人の子がこれを作ったら周りの子供達が「わあ、これ、どうやってやるの?」って聞いてまわって同じようなものを作る姿が見られました。この学年の子たちは2年生の頃にICT支援員に来ていただいて、KeynoteとScratch Jrを教わっていたんだそうです。それを単にゲームとか遊び目的で活用するのではなくて、学びのためとか、みんなの学習のためとかに活用しています。「委員会にこういうのを作ってもらいたいと思ってるんだよね」って言ったら、3年生でも作る姿勢を見せたりとかして、「学校とかクラスのために作ろうっていう姿勢が身に付いてきているな」ということを今年はすごく感じました。何でそうなったのかと考えると、タブレット元年から、本校は「賢くなるためにタブレットを使う」ということを大人も子供も念頭に置いていて、なんかちょっと逸脱した使いかたをしていたりすると、「それは

賢くなる使いた方なのかな」っていうふうに問いかけるようにしてきたのがやっと実を結び始めてきたのかなという感じがしています。

これは校内研修で使ったスライドです。本校は自分が1年間、力を入れたい教科を1つ絞って、チームごとに集まって、チームで課題を設定して研究を進めていくというスタイルをとっています。これは年度当初に、研究課題を決めてチームのアクションプランを作ろうとしているところです。前回、山下指導主事が研修をしてくださった情報化推進チームの研修を参考にさせていただいて、MetaMoJiで作らせていただきました。MetaMoJiのシートの中に、「2ページ目は特活チームが入ってください」「3ページ目は図工チームが入ってください」というようにして、それぞれのチームで別の場所で考えるんだけど、お互いのチームの様子を時々確認しながら進めたり、また、年度途中でももっとやりたいことがあったら、これに追加していったりとかして、「常に現在進行形のシートを作っていきたいな」という考えで進めていきました。ただ、タブレットを開かないとあまり意味がないので、先生方がいつでも視界に入れられるように印刷室のところに掲示したりして、アナログと併用して行くということも大事ななと思っています。それから、これはTeamsで「外国語チームはこんなので、皆さんどうぞ使ってみてください」というお知らせです。他のチームの先生方も「他学年にわたって活用できそうなものがあれば、ぜひロイロノートの資料箱に入れてください」ということで、気軽に共有できるような環境を整えることで授業準備の時間の削減とかにもつながっていくかなと思っています。

情報主任もとても整理上手なので、ICTに関する文書とか計画とかも、MetaMoJiとかロイロにも綺麗に整理して入れてくれているので、初任の初めてタブレットを使う先生とか、タブレットが苦手という方もそれを見ながら自分ですぐできるような環境にあるかなと思っています。

中川委員長

どうもありがとうございました。非常に魅力的な活動をたくさんやられているなと思ったんですが、私が個人的にすごく印象に残ったのは一番最初で、あのような協働の場を子供達が自ら創出しているということです。多分、全国で協働の場を作ろうとすると、教師の方で「じゃあ今から10分グループで話し合っ」と言うのを決めてかかることが多いと思うんですが、このパターンでいくと「誰とどう相談するかっていうのを自分で判断していく」これはすごくグッドプラクティスになるんじゃないかなという感じがしました。これから先、子供主

体の授業をどう具現化していくのかという1つのいい例になるなと思いました。各チームの取り組みが印刷室に入ると自然と目に入るとい
う取り組みもいいですね。これがボディーブローのように効いてくる
んじゃないかなという感じがしました。視界に入るとって大事ですよ。ね。
どうもありがとうございました。それでは中学校の例をお願いしたい
と思います。岩佐委員、よろしくお願いします。

岩佐委員

桜山中学校のタブレットの活用状況について説明させていただきます。
昨年度から桜山中学校では STEAM 教育に取り組んでおりまして、昨
年5月に熊本大学の前田先生に専門的な見地からいろいろなことをご
教授いただきました。年間を通して前田先生に助言を得ることができ
ており、実践を方向付けていただいております。今年度は4月に教育
センターの本田指導主事の方から小学校の実践事例についてご紹介頂
き、今後の実践についてご教授いただきました。

また、去年は apple のネイティブアプリの研修を受け、5人の桜山
中学校の職員がアプリリーダーになって、黒髪小学校と桜山中学校の
職員に研修という形でつかい方について講座を開くという取り組みを
しております。今年度の夏も予定しております。研修後は職員室でア
プリのつかい方や活用事例についての会話が増えました。また、それ
ぞれのアプリについてはリーダーが詳しく知っていますので、誰に
Keynote を聞けば細かいこと教えてもらえるっていうのが分かるの
で、アプリの使いかたについてのやりとりがよく行われて、研修での
学びを授業に生かすということが出来ます。昨年度の実践なんですけ
れども、2年生の総合的な学習の時間で防災について課題を設定して
情報収集して、プレゼン動画を作成して地域の方へ発表するというこ
とに取り組んでおります。Keynote や Clips、iMovieなどを生徒が自
由に使い発表につなげています。また、数学では GeoGebra や Pages
というアプリを使ってデジタルブックを作るという取り組みをしてお
ります。去年はデジタル作品コンテストでも優秀賞を受賞しています。
また、体育の走り幅跳びの授業では、跳んでいる様子をカメラで撮影
して、その跳び方について分析して、自分のホームに生かすというよ
うな取り組みをしています。また、自閉症情緒障害学級でも防災につ
いて学習して動画で発表するということをしています。自閉症・情緒
障害学級の生徒は、人前での発表が苦手な子供が多いので、ミー文字
を使って、アバターを使った発表に取り組んでいます。他の教科もい
ろいろ活用しているんですけども、他の紹介もしたかったので今回は
これくらいにしています。生徒会活動や部活動でのタブレット活用

も活発で、生徒会では Keynote を使って体育館でクイズを出したり、放送文化部では中体連推奨式の各部活動紹介の動画を Keynote や Clips など活用したりしながら動画を作成しています。今、生徒会のマスコットキャラクターの制作があって、Sketches で描いたイラストを出している生徒もたくさんいます。委員会活動や個人でのタブレット活用も行われており、図書委員会のポップコンテストでも自分で作った作品をたくさん出品しています。家や休み時間にイラストを作成して、こういった作品作りをしています。普段、生徒たちが使ってるタブレットですけれども、生徒たちの手にかかると、このようにクオリティの高い作品を仕上げる事ができています。

また、コミュニケーションツールとしても活用しています。桜山中学校は、外国から転入してくる生徒たちが多く、日本語が分からない状態で入ってくる生徒も毎年転入してきます。翻訳アプリなどを使って会話ができるようにしています。それから ZOOM でのやり取りも行われております。今日、千原台高校の先生も来ていただいているんですけども、3年生の総合的な学習の時間に、千原台高校の健康スポーツ探究科の先生にオンラインで質問する機会を設けていただきました。また、昨年度は、フィンランド在住の方やアメリカ滞在中の日本人の方とオンラインでつないで、フィンランドの生活や、アメリカでの仕事についてご講話いただきました。

本年度から授業の後半や家庭学習でキュビナも活用しております。普段や授業の時間を少し使ってドリル学習のような形でキュビナを使っているというふうに聞いています。この活用については Teams の方でこんなふうに活用していますということがあがっています。

桜山中学校では Teams を活発に利用しており、朝の職員会議がない代わりに Teams で 21 項目に分かれていろいろな情報がリアルタイムで共有されています。研究推進チャンネルを載せてるんですけども、ICT をどんなふうに活用しているかっていうことを具体的に共有し、Teams を使って業務の効率化につなげているところです。

中川委員長

どうもありがとうございました。

全国まわっていると、いろいろな自治体で「中学校は小学校のようにいかないんだよね。」って言われる自治体が多いんですね。桜山中学校は非常にタブレットを使い倒されてるなと思ったのと、もちろん担当の先生が苦労されていると思いますけれども、STEAM 教育とか業務の効率化とか、生徒会活動とか委員会活動など、ある教科に特化しないような、そういう横断的なテーマとか活用のところに活路を求

| | |
|------|--|
| 高木委員 | <p>められているというのが非常に上手なやり方だなという感じがしました。それから大学やセンターの指導主事を上手に活用している所が良いと思いました。引き続きよろしく申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>それでは高等学校の例に行きたいと思います。高木委員よろしく申し上げます。</p> <p>高校の方は Chromebook を使用しているので、今日はその活用と Chromebook がどういったものかについてご説明します。この Chromebook なんですけれども、Wi-Fi 前提になっております。ですので、家には基本的に持ち帰らせるんですけども、家では家庭の Wi-Fi を使ってもらうような形になっております。一応、折り畳んでタブレットのような形にはできますけど、分厚くて重いので、写真を撮る際はカメラが前面にあるので、この状態にしてからやっと撮れるって感じです。ですので、このノートパソコンの形的时候は、写真は撮れないということになっています。しかし、いろいろな形にして使えるので、生徒はよく動画を見ながら勉強しており、扱いとしてはいいのかなというふうに思います。次に、小中学校の iPad と一番違うのが、基本的にこの Chromebook は Google のアプリに依存しているということです。Google のアプリの活用ということで、Classroom、ドキュメント、スプレッドシート、カレンダー、ミーティング、サイト連絡先 gmail があります。小中学校ではロイロノートとか MetaMoji をよく使われているというふうに聞いてるんですけども、そういったものが基本的にありませんので、Google アプリの方を使っていきます。ざっと説明しますと Classroom というのが先ほどよく話題に上がっていた Teams の生徒版みたいな感じです。チームが生徒バインダーになります。ドキュメントはワードのようなものです。スプレッドシートがマイクロソフトのエクセルに、スライドがパワーポイントにあたります。あと、ミーティングがいわゆる ZOOM になります。サイトでホームページを作成することができます。地味といえば地味ですが、こういったアプリを活用しながら、授業の時に Chromebook を活用することになっていきます。</p> <p>Google Classroom では、基本的にクラスごと、教科ごと、科ごととかに授業を作成しまして、ここに課題ですとか、そういったものを上げることができます。それを提出してもらったら、この Classroom 上で採点することとかもできます。Meet があるのでオンライン授業をよく行っていた時には、この Classroom を開けばすぐ ZOOM みた</p> |
|------|--|

いなものが立ち上がるので、オンライン授業がすごくスムーズに行えました。この Classroom のおかげで、オンライン授業等は便利に使えらと思います。そして、Google ドライブですが、これがデータを保存する先になります。このデータをすぐ共有することができるのがすごく便利です。生徒間、教師間で、すぐ情報を共有できるので Teams とかでファイルとしてあげなくても共有をかけるとかすればすぐ使えるようになるので、そこはすごく便利かなと思っています。これは基本的に全部が授業用に準備されたアプリではなく、いわゆる社会一般で使われているようなものを使っていることになります。高校なので、まあそれでいいのかなって思っています。授業向けのアプリを使わずに、社会で使われるものを使うというのがすごく実務的かなと思っています。例えばこの Jamboard っていう Google が用意したアプリを使っているんですけども、いわゆるホワイトボードに自分たちで、好きに付箋で色を付けて貼ったりとか、文字を書いたりとか画像を貼ったりとか、そういったことがこの Jamboard 上で全部できるんです。これにうまく共有をかければ、グループ全員のものが自分の Chromebook で、目の前ですぐ見れたりするので、そういった情報の共有はすごくしやすかったりします。そのグループの付箋も同時に同時にリアルタイムで全部動くので、共有はしやすいかなと思います。これを使って、プレゼンを作成させているんですけど、この場合でも 4 人のグループで同時進行でプレゼンを作っています。グループ内で自分たちの役割を決めて、それに対して、「じゃ、自分がこのスタイルを作るよ」みたいなことがあって、自分たちでやっているグループ活動で、自分たちで「自分が何をやるか」とか、「どのぐらいするか」とか、「内容をどうするか」とか自分たちで決めているのはすごくいいなあっていうふうに思います。ですので、iPad と一番違うのは、Google のアプリを使いながら授業をしていくってところかなというふうに思っています。一番のメリットとしては、いわゆる仕事と同じようにドキュメントスプレッドシートのスライド全部を同時に共有できること。そういった共有でできることが、とても実社会に適している形じゃないかなというふうに思います。これで Chromebook の特徴だけでもわかって頂ければというふうに思います。

中川委員長

どうもありがとうございました。先ほど話されていたように、情報通信ネットワークの活用という一番最たるものが高校で出てくるのかというふうに思いました。今、いろいろとお話しいただきましたけれども、全国の高等学校の ICT 活用の例を聞きますと、やはり未だに

教師が提示をするっていう事が色濃く出ている。まだなかなか進まないんだよなって言われている校長先生が何もいらっしゃって。先ほど高木委員が何度も「共有」という言葉を使われていましたけども、やっぱりこの「提示文化」から「共有文化」に転換するということが大切ですね。特に高校生の場合、スキルが高いので、これをどう使うかっていうのが非常に喫緊の課題だなというふうに思います。ぜひここを極めていっていただくことをお願いしたいなと思っています。よろしくをお願いします。ありがとうございます。

それでは最後に宮本委員に特別支援教育の例としてお願いします。

宮本委員

この後、自由討議で学校間教師間格差の話のテーマになるということですが、お話をお聞きしながら本当にそうだなと思っています。私の関わっている通級指導のお子さんは、読み書きに苦手さのあるお子さんが多いです。私は熊本市の笑顔いきいき特別支援教育推進事業で巡回相談員としていろいろな学校をまわっています。その時に特別なニーズのあるお子さんには、ICTの活用によって、アダプティブ、アシスティブ、アクティブにすごく関わって、メリットとしてすごくいろいろな事例が出ています。最先端の先生は対話的な利用をされたり、治療的なアプローチでアプリを使ってビジョントレーニングをしたりとか、機能代替アプローチで肢体不自由の方がページをめくるとか、そういった機能をそのお子さんお子さんに合わせて使うという意味でとってもいいです。私の関わっているお子さんの話で行くと、機能代替アプローチとしての使いかたが一番多くて、とても書くのが苦手、書けないけれどもとても賢いお子さんで、しゃべったり話したりする能力は高いのに教室ではなかなか評価されなくて、だんだん自己肯定感が下がっていく子がいます。だんだん高学年に上がって登校しぶりとかが出てしまったりするようなケースも少なくありません。このお子さんもタブレットを使うようになって、小学3年の時、あまりにも動きたいのでバランスボールに座って体に刺激を入れながらタイピングの練習をしています。タイピングの練習のための歌詞も繊細な曲を選んで、繊細な後ろの画像を持ってきて作るような、すごい豊かなものが内面にあるので、タブレットで回答するようになったり、プリントを打つようになったり、テストの回答をするようになるとすごく表現がスムーズになります。音声教科書デジターとかで音声で理解することで、すごく情報へのアクセスや表現が楽になって、理解度が上がりました。テストも問題文がなかなか読めないのですが、テストの問題文の音を聞いて解くようなことができています。教科書もイヤホンで

聞けば教室の中でできるので、こういった事例がパラパラ出始めています。

しかし、入試を考えると、「入試は手書きでしょう」ということであつたり、「この支援は入試に取り入れてもらえるのか」という課題があります。昨年、「障害者情報アクセシビリティコミュニケーション施策推進法」という、すべての障害者があらゆる分野の活動に参加するために、情報は充分取れなければいけないとか、意思の疎通も支援が必要な場合は支援しなければならないという法律ができています。私が一番素敵だなと思うのは、この第4条の3項が障害者でないものにも資することを認識しつつ施策を行うというふうになっていることです。そこで、障害のある人向けに考えていることが、通常の学級のお子さんたちにもすごく便利なことがあって、これは特別なことだというふうには考えずにこのやり方が良いのであれば、多様な学びのメリットとか、「漢字は何で手書きで書かせなければいけないのか？」という教育の目的を、教員集団がもっと考えることが、このデジタルというか iPad がもっと浸透する大きなバックボーンになると思っています。

学校では多様な学びを膨らませるために、図書館の蔵書点検の時に本が借りられなかったので、電子図書館の紹介を司書の先生が子どもたちと担任の先生にしていました。音声で読める本もいっぱいありますので、電子書籍で聞くことができたり、音が出る絵本を制作して、図書館の廊下に展示して、児童に体験してもらい、僕は音声で聞いた方が分かるんだなという子供たちを育てたいと思っています。啓発のために、音声付きの本を展示したり、職員研修でそういったものを紹介したり、保護者向けにそういった認知の特性があるんだといったことを知らせしたりしています。

そして何より大事なのは、その子自身が自分はどういうところが得意であつて、自分の自己理解が進んで、自己調整、自己選択のできる子供を育てていくことが、最終的には学びの多様性を受け入れる大人を育てるといふか、多様性を認め合える学校を育てることになるかなと思つて取り組んでいます。先生方の取り組みが素敵すぎて、ちょっと恥ずかしかつたんですけど、大きく、このことは何のためにしているのかということがやっぱり一番推進する上で大切なのかなと考えているところです。

中川委員長

どうもありがとうございました。先生の提案を聞いて「非常に大事なことを言われたな」と思うのは、やっぱり多様な学びを保証するっ

| | |
|-------|--|
| | <p>という事ですよね。それで、それは特別な配慮を必要とする児童生徒だと、こちらが思っているにかかわらず、それぞれがやはり自分に合った学びをできる、それを保証できるっていうことがICTがすごく威力を発揮できるはずなので、そのところを我々大人がどういうふうに環境設定をしているのかっていうことで、非常に大きな問題提起をされたなというふうに思っています。</p> |
| 宮本委員 | <p>市立高校で今度マークシートの入試が始まるというニュースが入りました。「日頃の教え方や学び方のままでいいのだ」って言っていらっしゃる方たちは、「やっぱり出口がそこだから」と愛情をいっぱい思い、「現在の入試システムに向けてはその方法がいいんだ」とか、「手書きで大量に早く書けることがいいことだ」とか「一問一答的な回答ができる方がいいんだ」ってというような価値観が根強い気がしています。そこで、その熊本市の市立高校からそういうことが始まるということで、とてもとても期待していますし、大きく変わるんじゃないかなと思っています。ありがとうございました。</p> |
| 中川委員長 | <p>4人の先生には本当に限られた時間の中で非常考えさせられるご提案をされたなと思いました。どうもありがとうございました。</p> <p>それではこれよりあの自由討議をしたいと思うんですが、委員のそれぞれの立場から議論を深めていきたいなというふうに思うんですけども、まずは先ほどあのお話にありました。学校間、教師間格差の解消の話ですね。このことについてはあの論点を整理する意味で、まず事務局の方からご説明いただけますか？</p> |
| 事務局 | <p>【事務局より論点を説明】</p> |
| 中川委員長 | <p>ありがとうございます。2つありますよね。学校間教師間格差の課と、それから家庭学習の方法、これらについて、現状と課題と解消するための手立てをどうするかっていうことだと思うんですけども、自由討議だということもありますし、いろいろな立場の方が委員の中にいらっしゃいますので、是非それぞれの立場からご発言いただければと思うんですがいかがでしょうか？</p> |
| 前田委員 | <p>この格差は、熊本市に限らず全国的な傾向があって、まず先生同士、それから学校間、それから地域間でかなり差が開いています。いろいろ理由はあるんですけども、例えばWi-Fiの環境だったり、ハードウ</p> |

| | |
|--------------|--|
| | <p>エア環境だったりとかあるんですけども、今のところ、熊本市に関してはかなり環境的には良い方だと思うんですね。LTEですし、それから持ち運びもできますし、何といても教師に1人1台あるっていうのは、かなりいい環境に恵まれている。ですから、その格差が起きる一つの原因は、モデルカリキュラムの中には「こういうことをしましょう」「こういったアプリケーションを使いましょう」とあるんですけど、実際にそれを現場に下ろして、そういう校内研修があって、そのようなアプリを使った授業をするというところに至っていないというのが一番大きな問題で、私が思うにはやっぱり校内研修そのものを変える必要があるというふうに思っています。従来通りの校内研修は、年に何回か研究授業であるとか夏休みに一回ぐらい実技研修やるとかというぐらいです。それでは全く変わらないとっていて、学習そのものの考え方を変えなくちゃいけないので、私は、先生たちがまさに自分で授業のどこを変えなくちゃいけないのかっていうことを一人一人が、自分の問いを立てて、そして見通しを立てて、そして協働してそれを解決していくという探究型の校内研修に変えていく必要があるというふうに思っています。</p> |
| <p>中川委員長</p> | <p>もう1回返していいですかね？それができれば苦労しないと思うのですがいかがですか。</p> |
| <p>前田委員</p> | <p>結局やり方が分からない。先生方は、校内研修はずっとそういうもんだって信じ込んでいるので、やっぱり校内研修の事例を動画とかにまとめて、それを管理職研修、それから教務主任研修、研究主任の研修といったところで、協働的でリフレクティブな活動を行いながら、自分の授業を変えていくやり方を広めていく必要がある。教育センターのやる研修だとか、熊大がやる研修だとか、私が講師でやる研修とか、そういったところで連携しながらやっていく必要があるんだと思います。</p> |
| <p>中川委員</p> | <p>そうするとえっと。各学校のキーは管理職であり、ミドルリーダーだということですか？</p> |
| <p>前田委員</p> | <p>そうですね。それはまず絶対条件だろうと思っています。</p> |
| <p>中川委員</p> | <p>なるほどわかりました。ありがとうございます。委員の皆さんのご意見いただきたいんですが、いかがでしょう？</p> |

| | |
|---------------|--|
| <p>塚本副委員長</p> | <p>私は校内研修というのは重要と思うんですけども、基本的にこの使う使わないとかの話になった時に、1人1台ずつ配ったけど、それでも使わないというのになると、授業のスタイルを変えないといけないような感じがします。よく「はい、使ったでしょう」みたいな授業を見せられることもあるで、やはり授業スタイルを変えない限りはちょっと難しいかなという気はします。その授業スタイルはどうすればいいのかっていうのを、また校内研修でやらなきゃいけないのでしょうか、私としてはそれが重要かなと思います。どうすべきかと言われると、ちょっとじっくりやっていくしか手がないんだと思うんですけど、ICTを使った授業のあり方というのを変えていかないとけないような感じがします。</p> <p>大学でもコンピュータがあっても結局は従来通りのやり方をやったりしていますが、大学でもこの前のコロナで一気になっちゃったんですね。オンライン教育というのは圧倒的に進んでしまったので、それで意識がかなり変わったというのは、大学の教員の中にも見受けられるところです。もっともそのオンラインがいいとか、そういう議論をするつもりはないんですけども、少なくとも大学の教員も意識が変わったというのは大きくありますので、そういう意味で、現状の教員の方々の意識を、そして、授業のあり方を変えていただければというのが私の意見です。</p> |
| <p>中川委員長</p> | <p>次に4人の学校の委員の方にちょっとお聞きしたいんですが、今、塚本副委員長から授業スタイルを変えるべきという話がありましたが、私は大きな壁が二つあると思っているんです。一つは「なぜか変えなくちゃいけないかということがわからない」ということと、2つ目が「変え方がわからない」ということです。実感としてどうですか？</p> |
| <p>宮本委員</p> | <p>やっぱり出口の入試はすごく大きいと思っています。最終形の子供の姿にどういうものを求めるかっていうことを、みんなが考えているようで考えていなくて、結局、入試でいかに得点ができるかっていうところになっていて、対話的なのよりも、とにかくこれまでのやり方にとどまるような価値観がすごく根強いような感じがします。デジタル教科書がいつ入ってくるのかなと思うんですが、教科書自体が教授するために作られているから、一般的に使おうとすると教授してしまうようにいざなわれているような気がしています。そこで、デジタル教科書が入ってくる時に、キュピナみたいに異学年の内容に飛べ</p> |

| | |
|--------------|---|
| | <p>るとか、自分の学年にとらわれずに自分が戻りたいところに戻れるとか、学習者用のノートが必ずセットされていて、自分で学べるスタイルの教科書になったりすると、私達は背中を押されるようになっていくような気はするんですけど、それを待っていると、またそこに5年なり10年なりかかってしまうので、やっぱり教授っていうスタイルを本当に考え直さなきゃいけないなと思っております。</p> |
| <p>中川委員長</p> | <p>ありがとうございます。教科書はそうですね。発行法の第2条で教授の用に供せられる図書と書いてあるので、ここを変えていかなくちゃいけないっていうのは、まさにその通りだと思います。他の方はいかがでしょうか？</p> |
| <p>岡本委員</p> | <p>ちょっと話がずれるかもしれないんですけど、授業スタイルっていう点で、自分自身もできていなくて難しいところではあるのですが、「なるべく子どもたちに柔軟な使いかたができるようになるといいよね」という考えとか、「対話を深めるための授業づくりができればいいな」ということを理想としています。</p> <p>先日、小中連携で中学校に行った時に中学校での1年生のタブレットの使い方がよくなって、休み時間タブレットを集めているという話を聞いて、「小学校までの指導が中学校の理想としているところと逆行させてしまっているなあ」ということをすごく感じました。かつ、その時に見た授業も先ほど、中川先生が言われたように提示するとか、ノート代わりに使うものが多く、「タブレットによって議論を深めるとかいう授業をなかなか見ることができなかつたね」という感想を職員でした覚えがあります。次に小学校が授業をみせるときはもっとタブレットを活用できるような授業づくりができればと思います。「自分たちもただ中学校に見せるっていうわけではなくて、ちゃんと意識して授業を組み立てていかないとね」という話をしたところでした。</p> <p>研究授業とか、構えた授業をする時にはタブレットを必ず位置づけたりとかすると思うんですけど、そうではなくて、日々の日常通りすがりの授業みたいなのを近隣校とかでも、中学校小学校関係なく、「こういう使いかたもできるんだ」とか、「もうちょっと自分たちも使わなきゃな」とか、「これは別にICTじゃなくてもアナログでいいだろう」という場面も勿論あると思いますし、もっとお互いに知ることが、学校間の格差を埋めることになるのかなっていうようなことを思ったところでした。</p> |

| | |
|--------|---|
| 中川委員長 | ありがとうございます。言いにくいところも含めて言っていただいたと思います。 |
| 塚本副委員長 | 尾ノ上小学校のご発表の時に、理科と算数の Scratch Jr かなんかのアプリでプログラミングをされたと思うんですけど、あれは誰がどうやって指導されたんですか？とってもいいなと思って。 |
| 岡本委員 | 指導はしていません。 |
| 塚本副委員長 | まあ1回はどっかで習っているんでしょうけど、指導せずに自分たちでツールを選んで、自分で使いこなしてやっているというのはとても素敵だなと思って。そういう授業展開ができれば別にこっちで教えなくても子供たちの自由な発想に基づいた自由な表現活動ができるので、そういう授業展開ができればいいかなと思いました。 |
| 中川委員長 | いろいろな先生方がいる中で、やっぱり何か大きな問題が起こる前に、やっぱり制御をしなくちゃいけないっていうのを、それぞれの立場できっと心配されるからこそ、今のこの議論にきつとなっていると思うんですね。この辺はどう突破していけばいいんでしょうかね？ |
| 岩佐委員 | その話題よりもその前の話でもいいですか。 |
| 中川委員長 | もちろんです。 |
| 岩佐委員 | すみません。そのことには直接回答できなかつたんですが、タブレットの使い方なんですけど、以前プレゼンの授業をしたいなと思った時、数年前、Keynote をまだ私も使えていなかった時に、ICT 支援員の方に授業支援をお願いできないですかってお願いしてみたんです。そしたらあの快く引き受けていただいて、私が一から Keynote の使い方を教えて生徒にさせると、授業でやりたいけどまず自分が学ばなければならないというタイムラグができるんですけど、ICT 支援員の方がすぐに来てくださって、授業で私も生徒と一緒に Keynote の使い方を学びながら学習を進めることができました。授業の中身は指導できるのですが、タブレットの操作方法についてサポートいただくことで、よりよい学びになったと思います。自分だけでタブレットの操作方法を指導しようと思うと大変なんですけど、熊本市には ICT の専門家の方がたくさんいらっしゃるんで、助けていただけないですかと |

| | |
|-------|---|
| | <p>センターの方やICT支援室の方に行ってサポートいただくことで、活用につながるかなと思います。</p> <p>生徒たちは、各教科でいろんなアプリを使っていくので、自分ができなくても生徒たちができます。桜山中は昨年総合でいろいろな発表したんですけど、動画を作るといった際にも、ClipsやiMovieをただ使うだけじゃなくて、ロイロやSketchesのアプリいろいろ組み合わせながらGaregeBandで音楽を作成したり工夫して作ることができました。小学校の場合は担任の先生が授業されないといけないけど、中学校の場合はそういった形で連携をとって自分が教えられないなら他の先生にお願いして、ちょっとこの操作方法だけ教えてくださいというふうをお願いすることで、教師間格差はこう解消され、生徒が使えるようになるかなと思います。</p> |
| 中川委員長 | <p>非常に大事なこと言われていて、やっぱり一人で抱え込まないっていうのがすごく大事だっていうことですよね。ありがとうございます。重要なポイントを言っていたんだと思うんです。</p> |
| 高木委員 | <p>大変難しいなーと思いながら聞かせていただいたんですけど、まず、教師間の格差の件ですが、やっぱり高校でも同じだと感じています。基本的に小中高全部同じだと思うんですけど、やっぱりなぜ授業を変えなきゃいけないのかっていうのが分からないというか、その理由がまだ見つけられてない先生方が、特に高校は多いんじゃないかなと思っています。</p> <p>ここで、私がこのChromebookを使ってどういったことをしたかということのを少しだけ紹介させていただきたいんですけど、まず無理に使おうとは思ってないんです。ICTを絶対使わなきゃいけないと思っってないんですけど、絶対使ったほうが便利な場面が多いんです。今日してきた授業なんですけど、サステナブル商品ですとか、メタバースですとか、そういった店舗で「新しいビジネスプランを考えてみようよ」みたいな授業をしてきたんですけど、その時に、こっちからは評価基準しか出さなかったんです。評価基準だけ示して、それに対して、「自分たちで調査して」という形にして、「今日はグループで発表して、そのお互いフィードバックしてからやろうよ」ってしたんです。そのフィードバックと評価は紙でしたんです。別にFormsで出来るんですけど、あえてしませんでした。無理に使おうっていうことじゃなくて、使えるっていうところは使って、紙でいいことは紙でやればいいっていう感覚でやっています。</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>ずっと私は共有が一番テーマだなと思ってんですけど、その時に生徒が自分達から「ちょっとスライドを見やすくしたいから共有かけていいですか」とか自分たちが言ってきたんですよ。私の場合、自分3年間同じクラスを持って、授業もずっと持ってるので、シェアケースなんですけど、3年間ずっとやってきて自分がやりたかったことが少し形になったなという授業が今日できたなと思っております。</p> <p>学校間格差の方は、私の高校では学校改革がありまして、学校の学科とかが変わったんですよ。その中で、「やっぱりこういう生徒を育てたい」という話し合いとかをしたんですけど、そういったことを学年ごとにある程度、その目標を決めてやっていくしかないのかなと思います。学校間の格差があるとしたら、熊本市として目標をある程度決めて、そこに向けて各学校が取り組んでいくしかないかなと思います。</p> |
| 岩佐委員 | <p>私はこの会に出席するにあたり、いろいろな先生方からタブレットをどのように使っているか聞いてまわったんです。RealityComposerとか GeoGebra というアプリがあるんですけども、数学の先生がこの使い方の説明をしてくれ、とても面白かったんですよ。教科ごとに使いやすいアプリと使いにくいアプリとあると思うんです。教科ごとにそのアプリの使い方について、あんまり堅苦しい研修ではなくて、もっとフランクに、「こんな使い方してますよ」と情報共有できるような場があるといいんじゃないかなと思います。私はいろんな方から聞いて、情報を得て、今いろいろ詳しくなってるんですけど、もったいないなと。これは他の先生に伝えると、面白い授業ができるんじゃないかとかいうのをとても感じています。</p> |
| 中川委員長 | <p>すごくいいですね。いいものを共有していくっていうのは、とても大事なことかなと。校種とか関係ない話ですよ。ありがとうございます。</p> <p>持ち帰りのことの前、事務局にお尋ねですが、全国の教育委員会や教育センターのいろいろな取り組みを見ていて、本市は例えばキーワードで言うと探究とか創造とかに重点を置かれていると思うんですけども、何か大事されているとか、周知するとか、その辺の手だてとか工夫とかあったら教えて欲しいんですが。</p> |
| 事務局より | <p>以前から、いろいろな教科や総合的な学習の時間で学んだことを生かしていくところの場っていうのもありますし、探究的な学びは熊本</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>市としてもすごく力を入れているところです。その中でも、最近は、教育センターのSTEAM教育のモデル校もありますので、その中で探究的な学びにもすごく力を入れています。学校全体の年間の校内研修の進め方とか、そういったところもSTEAM教育を入れたりとか、管理職中心に学校を変えていったりする研修も行っているところです。</p> |
| 中川委員長 | <p>ありがとうございました。STEAM教育が最初テーマでも、そこで大事なエキスがもしかするとほかのテーマでも広がっていくのかなと思ったので、非常に重要なところですよ。是非、引き続き広げていただけたらと思います。</p> <p>次に、持ち帰りについてですが、学習家庭学習の方法がタブレット端末を使ったり使わなかったり、様々だという実態の調査もありましたけど、いかがでしょう？</p> |
| 濱石委員 | <p>私の子供たちは毎日使っているんですよ。もちろん紙でも書いていますが。例えば、漢字をただ書くよりは、タブレットで使った方が楽しくやっています。最初は私の方が詳しくはあったんですけど、今もう子供たちの方が詳しいんですよ。逆に分からないことをこっちが聞くような状況でもあります。タブレットは宿題として、子供達は楽しくやれると思っています。せっかく1人1台ありますので、ぜひ宿題や学習に活用していただけたらいいと思うんですよ。タブレットの場合は一緒に見ながらこっちも勉強できますし、タブレット持って帰って学習することはやっていただきたいと思います。先生の中にももちろんその不得意な人もいらっしゃると思いますが、得意な先生がおられるなら、そこを教えていただいて、なかなか全て平等にはなかなかいかないと思うんですけど、同じ学年では、片方のクラスはタブレットを使った学習をしてるけれども、別のクラスはそういう学習をしないと異なるのはちょっと可哀相だと思うので、せめて同じ学年は同じ方向を向いて宿題を出してもらえればとは思っています。私もたまに「他のクラスはこういうことをしていた」とか聞いた時は、学校の校長先生とかには話は持って行くんですけど、先生たちの意欲の問題とかもやっぱり出てくると思いますが、教師間の格差も無くしていただいて、同じ熊本市に通っている子供たちは、やっぱり同じような学習を受けてもらいたいですね。</p> |
| 中川委員長 | <p>ありがとうございました。今、ずっと聞いていて、やっぱりグッドプラクティスをさらに出して行って、共有していくっていうのがすご</p> |

前田委員

く大事だなということをいろいろなケースで思いました。今までも当然やられていると思うんですが、まあその辺がこれからも一つ課題になるのかなという感じをして聞いていました。他に何かこの件で、言い残したことある方いらっしゃいませんか？

今のところが私はすごく重要なところだと思っています。今までやってきた桜山中学校とか尾ノ上小学校の事例の中はかなりエキスの部分があると思っています、そこを共有した方がいいなというふうに思っています。昨年の12月に出た「令和の日本型学校教育を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」という答申が、私はとても重要だと思っています。その中に、研修のあり方について、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、主体的・対話的で深い学びを実現することは児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められると書いてありますが、ここがやられていないから、従来の「誰か講師が来て教えてくれる」というふうに、研究主任だけはすごく問題意識があっても、他の先生は問題意識がないまま校内研修を進めているんじゃないかなというふうに思います。

結局、尾ノ上小学校とか桜山中学校は、教師自らが問いを立てて実践を積み重ね、振り返り、次に繋げていく探究的な学びをやっていたんだなというふうに思うんです。最初に「こうこう自分の授業の問題を発見して課題を設定する」ってそこができてないから、結局何をしないといけないのか先生たちがよくわかってないんじゃないかと思います。尾ノ上小学校は、見通しを持つために具体的な取り組みを共有するということをやっていて、研究授業というのは、あくまでも自分の授業を改善する機会としてとらえていって、最終的にどうなったのかっていうのをみんなで共有するっていうことをやられてきたと思うんです。

自分の授業の問題を本当に省察して、きちんとみんなで話し合う機会があまりないんですよね。みんなで話し合うと、「ICTをあまり使っていないな」とか、いろいろな問題が結構出てきて、「じゃあどうしますか？」って話になった時に、「創造的なアプリをもっと使えるようになりたい」とか「どうすればいいんだろうか」って話になった時に、「こうすればいいんじゃないかな」っていうのをみんなで共有するということは、すごく大事だと思っています。1人ではなかなかできないけれども、みんなで「こうすればいいんじゃないか」って話し合いをすると、苦手な人も「そういうふうにやるんだな」と思えます。ICTが苦手な人もいればICTはできるけど振り返りが苦手な人もいる

し、先生たちの課題意識っていうのはいろいろなんです。スキルも違うし問題意識も違う。その中でどうしていけばいいのか、みんなですべて具体的に話し合っていくことが大事だと思っています。

そこで、大事なことは見通しをもつ時に、「こうすればできそうだな」とか「期待感」や「ワクワク感」がないままに、「義務でやれ」と言われてもなかなかしないんですよ。やっぱりみんな楽しいことはすると思います。尾ノ上小学校の先生たちが、夏休みに一日かけて研修をやった時なんか楽しそうでしたもんね。五福小学校の先生たちが半日かけて総合的な学習のカリキュラム改善するのもすごく楽しそうなんです。みんなですると楽しいって、私はそこがすごく大事ななと思っています。

尾ノ上小学校では自分の授業を改善するというプロジェクト学習をされていて、本当に自分の日常の授業の問題は何かということを見つけて、課題を設定されています。どう取り組むかっていうのをチームで話し合うということをしていて、その中にICTを使うこともでてくるでしょうし、使わないこともでてくるんでしょうけど、基本的に「自分の授業をこういうふうに変えようね」という見通しを立てることが大切だと思います。これまでは、どちらかというタブレットを使わせて終わりになったり、使っていても、調べさせて新聞を作らせて終わりになったりしていました。そこで、「もっとこう話し合わせよう」とか、「もっと振り返らせよう」ということを自分自身に提案するような形にしたんですね。尾ノ上小学校の研究授業は、よかった点と改善点を同時に記入していきます。今まで手を挙げて発言力のある先生が「この授業はこうだ」とみたいなことを言っていたのを、全ての先生が同時に意見を記入することによって、10分間で意見交換を済ませてしまいます。授業の評価的なことは前半にして、後半は改善点を中心にみんなで話し合っていきます。その時も常に対話をするけれども、先生たちも、普通にタブレットを使いながら授業改善をしていきます。つまり、先生も個別に、しかも協働的にやっていくということです。意見の交換をしていく時に大事になってくるのが、授業で大切なことは何かということを概念化することなのですが、これができていないので、研究授業がその授業の評価だけになってしまっていて、自分の授業に返されていません。「自分自身の授業をどう改善するか」という校内研修に変える必要があって、そのためには授業を一度抽象化して応用可能な言葉にまとめなくてははいけません。それができていないから、その授業の評価だけで終わってしまうので、「こうこうすればいいよね」というのをみんなで意見としてまとめて、自分の授

| | |
|-------|---|
| | <p>業を振り返っていくってということがすごく大事なんだろうと思っています。そうすると、先生たちは、自分たちのことを話し合うことができ、自分の授業はどうなんだって話になってきます。そして振り返ってみて、「自分の授業をもうちょっとこうしなくちゃいけないよね」となってきます。</p> <p>多くの学校では、1年間の見通しの中で「問題は何なのか」「何を自分がするのか」「研究授業の中で何を学ぶのか」といったものはありません。だから、校内研修をこういう形で一年間の中でやっていく必要があると思っています、従来の授業研究会はどうしても授業だけの評価になっていたと思います。リフレクションを促す授業研究会の場合は、前半はその授業について、後半は自分の授業について、対話によって明らかにして行くような、こういった校内研修のやり方を広めていく必要があるんじゃないかなと思っています。</p> <p>ただ、概念化とかいうのはなかなか難しいので、今、教育センターと連携して動画を作っているところです。こういうやり方を広めていく必要があるっていうふうに思っています。楽しくないと多分授業は変わらないと思います。</p> <p>どうもありがとうございました。研修のあり方っていうのは、今後とも大きな課題になると思いますので、またいろいろと情報共有がここでできるといいかなって思いますし、先ほどあのグッドプラクティスという言い方をしましたが。こうやったらちょっとうまくいかなかったってということも、できたら何か共有できるといいなというふうに思いますので、また引き続き委員の皆様にご意見をいただきたいと思っています。どうもありがとうございました。</p> <p>それではもう一つの教育データの利活用について、このことにつきましても、教育センターより少し補足を頂いてから自由討論に行きたいと思っています。よろしくお願いします。</p> |
| 中川委員長 | <p>どうもありがとうございました。研修のあり方っていうのは、今後とも大きな課題になると思いますので、またいろいろと情報共有がここでできるといいかなって思いますし、先ほどあのグッドプラクティスという言い方をしましたが。こうやったらちょっとうまくいかなかったってということも、できたら何か共有できるといいなというふうに思いますので、また引き続き委員の皆様にご意見をいただきたいと思っています。どうもありがとうございました。</p> |
| 事務局 | <p>【事務局より論点を説明】</p> <p>教育DXについて</p> <p>「熊本市が行っている授業改善の視点で、子供主体となっている授業とはどのようなデータで、どのような分析を行えば判断できるのか」</p> |
| 中川委員長 | <p>私も中教審の委員の1人ではありますけども、実際に出てくる資料を見ると、何かピンとこない。つまり、何があれば、どういう使いかたをすれば、教師は腰を上げてくれるんだろう。そこまでリーチしてな</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>いような気がしてしょうがない。もっともらしいことが書いてあるんですけども、なかなかそれが具体的に落ちていかない。これについては非常に難しいと思うので、あまり言葉を選ばずに、意見をいただけたらいいかなと思うんですが。</p> |
| <p>塚本副委員長</p> | <p>やっぱり定量的に把握したいっていう意味なんですかね？ 定量的な把握はかなり難しいと思います。主体的であるということは、子供がどれだけ活動しているかということになるんでしょうけども、実際の主体的というのは、今までもいろんな論文を見てもはっきりとした定量的データは測りようがないので、何か別のものに置き換えないといけないような気がします。例えば、授業時間のうちの子供の活動時間はどれぐらいだとか、それをまあ主体と考えると、何か別のものに置き換えないと今の段階ではちょっと難しいような気もします。昔、会話の内容を記録して分析するとかいう話があったじゃないですか。あれはどうなったんですか？</p> |
| <p>事務局</p> | <p>実際にデータを取ってみたら、実態を知っている教師の見立てと全く一致しなかったというような状況もあったと聞いています。</p> <p>そこで、質問項目だったり、アンケート項目をクロス処理するなど、教師側の実感と一致する方法というのはあるのかが分かればということで討議の議題として挙げさせていただいています。</p> |
| <p>中川委員長</p> | <p>ありがとうございます。また4人の方に聞きますが、データ関係なしに子供主体の姿だなんて思われる一瞬ってどういう時に何を判断して思いますか？主体的にやってるなとか、子供のための活動だなんて思われる時っていつでしょう。</p> |
| <p>岡本委員</p> | <p>私も自分がどうしても授業中喋りすぎてしまうので、やっぱり、子供たちが挙手だけじゃなくて、挙手を飛び越えて話したがる瞬間に子供主体になっているのかなっていうふうに思っています。</p> |
| <p>中川委員長</p> | <p>ルールを逸脱してでも今これを主張したいんだみたいな、そういう姿ですよ。要はそれをデータに取れるかって話なんですけど、他3人の方、いかがでしょう？</p> |
| <p>岩佐委員</p> | <p>総合的な学習の時間で取り組んでいるんですけども、自分で課題を設定して、その課題解決に向けて学んでいる時に、主体的に取り組</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>んでいる姿勢が見られますので、それをどう分析するかですよね？</p> |
| 中川委員長 | <p>課題に向けて真剣に取り組んでいるという姿ですかね。先ほどから聞いていると、あの環境としては整っている。高校生はいろいろな端末ですと使い方に広がるってことがありますか？</p> |
| 高木委員 | <p>そうですね。まさにいろいろ使えたら知識として知っているけれども、主体的にやっているのかって言われたら難しい。主体的と言われたら主体的かもしれない。それで、授業のなかでは極端な言い方すると授業で教えてないことをし始めたら、主体的だなんて思う瞬間は正直あったりします。こっちが枠で決めていること、評価基準があったりするんで、教師が枠決めちゃっているんですけど、その枠を飛び越えた瞬間に主体的にやったなというふうに思ったりします。</p> |
| 中川委員長 | <p>今の話で言うと主体の枠って作れないんですか？評価基準みたいなものです。</p> |
| 高木委員 | <p>主体の枠ですね。高校でも観点別の評価の一步として取り込みたい。将棋の藤井聡太が、「自分は宿題分かっているからしなかった」って言ったんですよね。それがむしろそれって主体的じゃないかと思う。自分に必要のないものはしないとなった時に、学校としては「宿題をしてこなかったら、じゃあ評価できません」とは言えないわけなんですよ。その時、その主体的を枠にすることは難しいと思います。</p> |
| 宮本委員 | <p>具体的なことを評価にして、その評価に妥当性とか信頼性とか妥当性をもたせようとする、やっぱなかなか先生たちはじゃあノート出しなさいみたいなことに、その妥当性を評価する段階でバラけてしまうのを恐れるような気がするのと、主体的になっている授業というのは、アクションリサーチでサンプリングとかでこちらが観るしかないような気がします。そして、子供が主体的となっていると言われると、ちょっと違うかもなんですけど、教師の発問が主体的なものを促す質問になっているか、こちらが何かを強いる発問だったり、指示語だったりの割合が多いから、とりあえず枠組みとしてはこちら。教師側が何と発言しているかをとっていくと何か出るような気はします。</p> |
| 中川委員長 | <p>踏み込んでいただきありがとうございました。たぶんこの討議は2段階あると思っています。「子供が主体となっている授業ってどうい</p> |

| | |
|---------------|---|
| | <p>う授業ですか」というのをまずイメージ共有して、その上で、「どんなデータが取れるか」という話だと思う。それを一遍に聞いているので、なかなか難しいんだなというふうに思うので、私が最初に難しいですねと言ったのはそういうことなんです。</p> <p>濱石委員は、あのお子さんがいらっしゃると聞いたんで、お子さんを見ていて主体的に取り組んでいるなって思われる一瞬ってどういう一瞬ですかね？</p> |
| <p>濱石委員</p> | <p>親が言わなくても勝手にやる時ですかね。自分の好きなことは言わなくても勝手に子供がします。そこはもう完全にこっちが言わなくてもそれ以上のことをしています。子供によってももちろん1人1人違いますけど、うちも小中高と5人子供がいますが、自分の好きなことにはここまでするかと逆にこっちが止めてやったりもしますので、やっぱりそこが一番かなと思います。運動にしても勉強にしてもそうですけど音楽にしろ、ひとりひとりやっぱり違うんですが、好きなことをやってるときは生き生きしていて、顔も全然違いますので、全員と一緒に難しいと思うんですけど、好きなことをしている時は主体的に動いているかなと思います。</p> |
| <p>塚本副委員長</p> | <p>主体的な子供は放っておいても主体的なので、問題は主体的となるような授業だと思います。そこを論じないといけないかと思います。そこで、子供が全部主体的になるかどうかは別としても、なるような授業をどうするかということに繋がってくる。だから今までの先生が教える授業から自分たちで作る授業というのを考えないといけないというのが私の思いです。</p> |
| <p>中川委員長</p> | <p>ありがとうございました。なかなかこれは一編にこの限られた時間で解決するような問題じゃないと思うので、一度またどこかで議論できればいいと思いますし、こういうようなデータを取ろうとしている自治体があるのかどうか、そういうことも含めて、事務局に少しリサーチをして頂きたいなと思いました。こういう姿を取るっていうこと自体がなかなか感覚としては難しいと思います。</p> <p>一つのヒントは今日、みなさんの話を聞いていて、さっき前田委員が言われた「研修は楽しくないと行動化しない」ということは、授業にもきっと同じことが言えるんだなと思いながら聞いていたので、ぜひこの委員会で、子供主体となる授業のイメージをまず共有化した上で、さて、それがデータとしてどう取れるのかというような議論がで</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>きるといいなと思いながら聞いていました。</p> <p>それでは時間になりましたので、ここまでとしたいと思います。どうもありがとうございました。</p> <p>議長、議事の進行ありがとうございました。</p> <p>ここで、教育センター副所長の吉田からお礼を申し上げます。</p> <p>【吉田副所長 お礼の挨拶】</p> <p>次回は 12 月頃に開催を予定しています。</p> <p>これで令和5年度（2023年度）第1回 熊本市教育の情報化検討委員会を閉会いたします。</p> <p>委員の皆様 ありがとうございました。</p> |
|-----|--|